

～前半 省略～

中学校の3年間、特にこの一年間は受検のこともあり、インパクトは相当に大きかったと感じています。

最初に、新たな矢中作りの創造について申し上げます。

4月8日、始業式で新たに着任した校長の熱い話を20分以上、聞いてくださいました。「新たな矢中のレジェンドを創ろう」「天下の矢中の復活」「矢中ブランド力のアップ」などを訴えながら、矢中の教育目標達成に向けたMISSION「Happiness」を理解していただき、3年生が矢中作りの中心スタッフとして活躍していただきました。

数ヶ月後には、クラスの中や校内中に「Happiness」が飛び交う学校へと変わっていきました。

生徒会役員が中心となり、福祉委員会のボランティアの声かけ、特に「やいたの花火大会」の次の朝の清掃ボランティアには、200名を超える生徒の参加など、たくさんの生徒たちが参加し、多くの地域の方々から、お褒めのことばをたくさんいただくようになりました。

この一年間を振り返ると、卒業生の言動や行動力、沸き立つ熱意、そして実行力、福祉の心などが際だって変化したと私を含めて職員たちも感じています。

今年度作り上げてくださった矢中の変革を次の年度にも引き継ぎ、成長、進化していきたいと考えています。

次に、卒業生に次のような詩を贈ります。

七色の夢に 向かって進もう
どんな色に なるのかな
勇気だして すすんでいこう
あしたの空の あるほうへ
あしたに向かって 生きていこう
すてきな人のこと 考えて
力をあわせて すすめたら
たどり着けるよ みんなの夢の色に

この詩は、現在中学1年生、「視神経低形成」という病気を持って生まれ、まったく目が見えない女の子が、5歳でピアノを習い、天使の歌声、天才シンガーソングライターとして最近、メジャーデビューした、佐藤ひらりさんの曲、「なないろの夢」の歌詞の一部です。

卒業生、一人ひとり、自分の「夢」や「大きな目標」に向かって生きていってほしいという校長の願いを込めて紹介します。

～後半 省略～